

【臨床・研究】

CIN に対する, レーザー蒸散, 円錐切除を行った症例の型別 HPV の推移

こ	ぼやし	まさ	ゆき ¹⁾	つか	お	ま	ゆ ¹⁾	よし	どみ	けい	こ ¹⁾
小	林	正	幸 ¹⁾	塚	尾	麻	由 ¹⁾	吉	富	恵	子 ¹⁾
ひら	の	はる	ひと ¹⁾	なが	さき	ま	こと ²⁾	もも	の	き	み
平	野	開	士 ¹⁾	長	崎	真	琴 ²⁾	桃	木	美	弥 ²⁾
く	ぼ	とも	こ ²⁾	いし	だ	かつ	なり ³⁾				
久	保	智	子 ²⁾	石	田	克	成 ³⁾				

キーワード：HPV, CIN, 免疫応答, レーザー蒸散, 円錐切除

要 旨

CIN に対しレーザー蒸散, 円錐切除が広く施行されているが, 今回我々は治療前後の HPV 型別診断を行い, HPV 消失までの経緯, 消失後の再感染の状態などにつき検討した。治療により, 治療前の HPV は治療前に HPV が検出されなかった 2 例を除いた 43 例中 41 例 (95.3%) で陰性化した。治療早期 (1~2 ヶ月以内) に陰性化する症例も多い一方, 陰性化に数ヶ月かかる症例もみられた。治療前の HPV が陰性化した後, 18/29 (62.1%) は陰性を持続したが, 11/29 (37.9%) の患者で HPV が再陽性となった。再陽性となった内訳は, 治療前と違う型が 8 例, 型別不明が 2 例で, 治療前と同型の HPV の再発は 1 例のみ認められた。これらの事より, CIN 治療により治療前の HPV が消失した患者は同型の HPV 感染が非常に起こりにくい状態になっていることと, 治療後早期に HPV が完全に消失していなくとも, 治療後は HPV 感染細胞を徐々に排除してゆく, 何らかの機序が働いているものと考えられた。

はじめに

HPV 感染は免疫応答を起こしにくく, 再感染も起こり得ると一般的には認識されている¹⁾²⁾³⁾。CIN を治療し HPV がどのように消失してゆき,

また再感染はいかに生じるのか非常に興味深い。今回我々は CIN 治療前後の HPV の型別分類を用い, 尚その後の経過を最長 6 年にわたり観察したので報告する。

方 法

HPV の検出は PCR 法を用いて型別分類を当院検査科にて行ったが, 一部経過観察を HPV-DNA 法 (ハイブリッドキャプチャー II) にて行っ

Masayuki KOBAYASHI et al.

1) 浜田医療センター産婦人科 2) 同 臨床検査科

3) 岩国医療センター臨床検査科

浜田医療センター産婦人科

連絡先：〒697-8511 浜田市浅井町777-12